

2025年

第72回 日本PTA北海道ブロック研究大会

宗谷管内・稚内大会

開

催

要

項

稚内市



猿払村



浜頓別町



中頓別町



枝幸町



豊富町



礼文町



利尻町



利尻富士町



幌延町



大会スローガン

『てっぺんから広げよう！子育ての輪と和と話』

大会主題

「未来を担う子どもたちの今とこれからの幸せ（well being）を願い、
学び合い、連携し合うPTAをめざして」

主催： 日本PTA北海道ブロック協議会（北海道PTA連合会・札幌市PTA協議会）

主管： 稚内市連合PTA 宗谷管内PTA連合会



2025年度 第72回日本PTA

北海道ブロック研究大会 宗谷管内・稚内大会

期 日

2025年10月4日（土）・5日（日）

会 場

サフィールホテル稚内・稚内総合文化センター

稚内東中学校・稚内南小学校・稚内南中学校・潮見が丘小学校

主 催

日本PTA北海道ブロック協議会（北海道PTA連合会・札幌市PTA協議会）

主 管

稚内市連合PTA 宗谷管内PTA連合会

後 援

公益社団法人日本PTA全国協議会 文部科学省 北海道 稚内市 猿払村 浜頓別町
中頓別町 枝幸町 豊富町 礼文町 利尻町 利尻富士町 幌延町
北海道教育委員会 稚内市教育委員会 猿払村教育委員会 浜頓別町教育委員会
中頓別町教育委員会 枝幸町教育委員会 豊富町教育委員会 礼文町教育委員会
利尻町教育委員会 利尻富士町教育委員会 幌延町教育委員会
北海道小学校長会 北海道中学校長会 宗谷校長会 稚内市校長会 猿払村校長会
浜頓別町校長会 中頓別町校長会 枝幸町校長会 豊富町校長会 礼文町校長会
利尻町校長会 利尻富士町校長会 幌延町校長会
北海道公立学校教頭会 宗谷公立学校教頭会 稚内市教頭会 猿払村教頭会
浜頓別町教頭会 中頓別町教頭会 枝幸町教頭会 豊富町教頭会 礼文町教頭会
利尻町教頭会 利尻富士町教頭会 幌延町教頭会 公益社団法人日本教育会



PTA の 歌

作詞 補作 作曲 編曲
路十而一
紅八裕
日条関本
春西古宮

Moderato

mf B E E#dim F#7 B E F#7 B

はるかぜそよそよ ふくまどに ことりもくるくるとんでくる

F# B (v) D#m7 G#m7 C#m9 F#7 V

あかるいまーどーよ ほほえむかおよ

E B (v) F#7 B F#7 V

さくらのーはなさくはるのうたー

B E B/D# E (v) B/F# F#7 B

みんなで いっしょに うたおうよ

一、

春風そよそよ 吹く窓に
小鳥もくるくる とんで来る
明るい窓よ ほほえむ顔よ
さくらの花咲く 春の唄
みんなでいっしょに うたおうよ

二、

みどりに輝く 学校が
明るい家庭を よんでいる
希望の町よ 希望の村よ
文化の光に 手をのべて
子どもといっしょに 進もうよ

三、

あふれる力に 健康に
子どもが呼んでる おどつてる
みのりの秋よ もみじの丘よ
こころも楽しいハイキング
子どもといっしょに おどろうよ

四、

世界を結んだ 大空に
ひびいて子どもの 胸が鳴る
あしたの鐘よ 夕べの鐘よ
平和で住みよい 日本を
みんなでいっしょに つくろうよ

目 次

挨拶

宗谷管内・稚内大会大会長	廣瀬 堅一	・・・ 2
宗谷管内・稚内大会実行委員長	出村 賢志	・・・ 3

祝辞

北 海 道 知 事	鈴木 直道	・・・ 4
稚 内 市 長	工 藤 広	・・・ 5
公益社団法人日本PTA全国協議会会長	太田 敬介	・・・ 6
北 海 道 議 会 議 長	伊藤 条一	・・・ 7
北海道教育委員会教育長	中島 俊明	・・・ 8
稚内市教育委員会教育長	佐伯 達也	・・・ 9

大会日程	・・・ 10
------	--------

全 体 会	・・・ 11
-------	--------

記念講演	・・・ 12
------	--------

会場案内図	・・・ 13
-------	--------

分科会

第1分科会	・・・ 14
第2分科会	・・・ 16
第3分科会	・・・ 18
第4分科会	・・・ 21
第5分科会	・・・ 24
特別第1分科会	・・・ 26
特別第2分科会	・・・ 28

北海道PTA連合会 委員会活動報告	・・・ 30
-------------------	--------

ご挨拶

第72回日本PTA
北海道ブロック研究大会
宗谷管内・稚内大会
大会長 廣瀬 堅一



第72回日本PTA北海道ブロック研究大会宗谷管内・稚内大会が、ご来賓の皆様そして全道各地会員の皆様お集まりのもと開催できますことに心より御礼を申し上げます。また大会開催にあたり、計画段階から今日まで多大なるご尽力をいただいた稚内市を中心とする宗谷管内10市町村の会員の皆様、ならびに関係諸団体の皆様には心より御礼申し上げます。

昨今PTAの存在についてさまざまなことを見聞しますが、今一度原点に立ち返って考えることが大切ではないでしょうか。多くの皆さんは愛するわが子や近所子どもたちのために何かできることはないだろうか、一人でやるよりも同じ考えを持った人といっしょに活動した方がより子どもたちのためになるのではないかと、ということからPTA活動にかかわるようになったのではないかと思います。この想いこそがPTAの重要な役割だと感じています。休みの日でも自分たちのために楽しみながら頑張っているPTA活動をしている親の姿をみて、子どもたちは嬉しく誇らしく思ってくれると思いますし、それが自分の充実感や達成感に繋がっているという人も多いのではないのでしょうか。そんなときの親の姿は輝いているでしょうし、その姿を見せることこそが、他には代えられない最善の子育てといえるのではないかと思います。

親が輝き続ける方法の一つとして学び続けるということがあると思います。子育てのことだけでなく子どもをよりよく理解することや自分磨きなど、

学ぶことはたくさんあります。その学びの場を各地区のPTA連合会では企画運営しています。そしてその最大の機会がこの北海道ブロック研究大会といえます。

記念講演を聴いて感銘を受けることで心の内面を磨き、分科会で各地区の優れた実践に触れそれをもとに同じ立場にいる人同士が交流し合うことで新たな学びを深めることができます。ここでの学びを自分の住んでいるところに持ち帰って広げていき、さらに自分たちの活動を活性化していくことがこの研究大会の意義だと感じます。

もちろんPTAの会員は保護者だけではなく教職員の皆さんも社会教育の場でともに子どもの成長に力を尽くしていくPTAの大切な会員です。子どもたちが予測不能な将来を自分の力で力強く生きていくことが求められるこういう時だからこそ、校長先生をはじめとする先生方と保護者が力を合わせて、子どもたちを笑顔にしていき自分たちも笑顔になれる場としてのPTAを再構築していくことが大切です。

「てっぺんから広げよう！子育ての輪と和と話」のスローガンのもと、日本の最北端であるここ宗谷・稚内の地から、北海道全域に前向きで意欲的なPTA活動のパワーが届けられ、北海道PTA連合会に集う同じ志を持った会員が人の輪を広げ、さらに学び続ける契機となる大会となるよう祈念してご挨拶とさせていただきます。

ご挨拶

宗谷管内・稚内大会実行委員長

出村 賢志



このたび、第72回日本 PTA 北海道ブロック研究大会 宗谷管内・稚内大会を、日本のてっぺん・稚内の地にて開催できますことを、大変光栄に思います。ご参加いただきました皆さまに、実行委員会を代表して心より歓迎申し上げます。

本大会のテーマは「てっぺんから広げよう！子育ての輪と和と話」です。最北の地から始まる“輪”が、親と子、地域と学校をつなぎ、やがて全道へ、そして未来へと広がっていくことを願っております。また“和”は心の和やかさであり、日本の伝統文化を大切にする心であり、さらに“話”は対話と共有の象徴です。この三つの要素が重なり合うことで、より温かく力強い PTA 活動が実現すると考えております。

主題に掲げたのは「未来を担う子どもたちの今とこれからの幸せ (well-being) を願い、学び合い、連携し合う PTA をめざして」という思いです。子どもたち一人ひとりが安心して学び、のびのびと成長できる環境を整えることは、私たち大人に課せられた大切な使命です。そのためには、保護者同士が互いに学び合い、知恵を分かち合いながら、地域や学校、社会と手を取り合っていくことが欠かせません。

ここ稚内は、厳しい自然に育まれた地域でありながら、互いに支え合い、助け合う文化が息づいています。冬には強い風雪に見舞われますが、それに耐えながら生活するなかで培われたのは、互いを思いやる心と連帯感です。また、広大な草原や海に囲まれた環境は、子どもたちに豊かな感性と大らかな心を育んでくれます。こうした地域の気風は、まさに PTA 活動の原点と

もいえるものでしょう。

今回の大会では、全道各地から多くの仲間が集い、世代や地域を超えた交流が生まれます。同じ悩みを抱える保護者同士が出会い、語り合い、励まし合うことは、私たちに新たな視点や勇気を与えてくれます。そしてその学びや気づきは、必ずやそれぞれの地域での活動に生かされ、子どもたちのよりよい成長につながっていくはずです。

本大会の実現にあたり、多くの皆さまにご尽力いただきました。準備を共に進めてきた宗谷管内の PTA 関係者の皆さま、支えてくださった地域の皆さま、そしてご理解とご協力をいただいた関係機関の皆さまに、心より感謝申し上げます。PTA は決して一人では成し得ない活動です。ここに集う仲間の存在こそが、私たちの力の源であり、未来を切り拓く大きな推進力であります。

どうぞこの稚内の地で、多くの出会いと交流を楽しんでください。そして、その学びやつながりを、それぞれの地域に持ち帰り、子どもたちの笑顔のために活かしていただければ、これに勝る喜びはありません。さらに、この大会で育まれる絆は一過性のものではなく、これからも続いていく大切な財産になると信じています。互いに励まし合い、高め合いながら、次世代の子どもたちにより良い社会を残していけるよう、共に歩んでまいりましょう。

本大会が、未来を担う子どもたちの幸せを願い、私たち大人が共に歩みを進めるための新たな一歩となることを心から祈念し、挨拶とさせていただきます。

ご挨拶

北海道知事

鈴木 直道



第72回日本PTA北海道ブロック研究大会宗谷管内・稚内大会が、全道各地から多くの皆様のご出席のもと、盛大に開催されますことをお喜び申し上げます。

PTAの皆様におかれましては、それぞれ我が子の健やかな成長を見守られながら、先生方や様々な関係の方々と良好な関係を築き、地域全体で子どもたちを守り育てる環境づくりに努められていることに、深く敬意を表しますとともに、本道の学校教育の充実にご理解、ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

今、少子化の進行や家庭環境の多様化、デジタル化の進展など、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化する中、本道の未来を担う子どもたちには、状況に適応するしなやかさ、困難に向き合うたくましさ、新しいことにチャレンジする積極性など、変化の激しい時代を生き抜く様々な力を養うことが求められています。

こうした中、皆様におかれては、家庭・学校・地域において、子どもたちが健全な生活習慣を身につけ、意欲を持って学習に取り組み、様々な人と交流するなど、多様な学びを得られる環境づくりに取り組まれており、こうした活動は、子どもたちの成長を後押しする上で、ますます重要になっていくと考えています。

「てっぺんから広げよう！子育ての輪と和と話」をスローガンに開催されるこのたびの研

究大会では、「未来を担う子どもたちの今とこれからの幸せ（well being）を願い、学び合い、連携し合うPTAをめざして」という主題のもと、全道の関係者が意見を交わされると伺っており、この貴重な機会を通じて皆様が研鑽を深められ、得られた知見やネットワークをそれぞれの地域に持ち帰り、日々の活動に活かしていただきたいと思います。

道では、本年4月に施行した「北海道こども基本条例」の下、「こどもまんなか」の考えに立って「学び」と「育ち」の政策の緊密な連携を図りながら、子ども施策を総合的かつ計画的に推進しています。

北海道に生まれ、育ち、そして、学んだ子どもたちが、ふるさとへの思いを胸に、新しい時代における北海道の担い手として大きく成長できるよう、本道教育のさらなる充実に取り組んでまいりますので、今後とも、皆様のお力添えをお願い申し上げます。

結びに、開催にご尽力された実行委員会をはじめ、関係の皆様には深く敬意を表しますとともに、本大会のご成功と日本PTA北海道ブロック協議会のますますのご発展、並びにお集まりの皆様のご健勝を心より祈念し、お祝いのことばといたします。

ご挨拶

稚内市長

工藤 広



第72回日本 PTA 北海道ブロック研究大会 宗谷管内・稚内大会が、ここ日本最北の地、稚内市において盛大に開催されますことを、開催地を代表して心よりお慶び申し上げます。

全道各地よりお集まりいただきました PTA をはじめとする多くの関係者の皆様に心から歓迎いたします。

また、本日本お集まりの皆様におかれましては、子どもたちの健やかな成長を願い、日頃から各地域における PTA 活動を通して、子どもたちの健全育成や地域の教育力の充実等に多大なるご尽力をされておりますことに深く敬意を表します。

さて、本大会のテーマである「てっぺんから広げよう！子育ての輪と和と話」は、人と人とのつながりを意味する「輪」、調和と尊重を重んじる「和」、そして対話を通じて互いが理解を深める「話」が重なり合い、子育てを支える温かな土壌を育むという、私たち、稚内市がこれまで長年にわたり取り組んできた「市民ぐるみの子育て運動」の精神そのものです。

本市は、子どもの健やかな成長のため、家庭、学校、地域が一体となって推進するこの子育て運動を土台として、次代を担う子どもたちの健やかな成長と平和なまちづくりを進めることこそが私たち大人の責任であるとして、1986 年（昭和 61 年）に全

国で唯一の「子育て平和都市」を宣言した街でもあり、この宣言に市民の平和への強い願いが込められ、これまで引き継がれてきました。

本大会では、宮沢和史氏による記念講演において、「戦後 80 年を迎えて～沖縄と北海道から平和を願う～」と題しお話をいただくと伺っております。子育ての営みが、未来に向けた平和な社会を築く礎となることを再認識する貴重な機会となることでしょう。

私たち大人が、多様な価値観を認め合い、対話を通じて理解を深めていく姿勢こそが、子どもたちに平和な未来を継承していく上で最も重要な教育であると確信しております。

大人たちの力合わせによって、次代を担う子どもたちが未来に夢や希望を持てるよう、本大会が全道各地における教育環境の充実につながる、実り多き大会となり、また、皆様におかれましては、子どもたちの未来のために、引き続き地域に根ざした活動に取り組んでいただきますことを心からご期待申し上げます。

結びになりますが、本大会の開催にあたりご尽力いただきました、日本 PTA 北海道ブロック協議会をはじめとする関係者の皆様に心から敬意を表するとともに、本大会のご成功と、ご参加の皆様の今後ますますのご健勝とご活躍をご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

ご挨拶

公益社団法人
日本PTA全国協議会

会長 太田 敬介



第72回日本PTA北海道ブロック研究大会宗谷管内・稚内大会が稚内市内の各会場において盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。本大会は『てっぺんから広げよう!子育ての輪と和と話』を大会スローガンとして掲げ、道内PTA会員ならびに教育関係の皆様が、日々の活動の活性化に向けて様々な実践や情報を共有する場として開催されます。子供たちの豊かな教育環境は、PTAを通じた家庭・学校・地域の連携によって支えられており、今日ここに集われた皆様一堂に会し、学び合い、日々の課題解決に向けて意見交換することは、今後のPTA活動の充実へとつながる貴重な機会です。

PTAは戦後発足以来、歴史と実績を積み重ね、日本教育の民主化に大きな貢献を果たしてきました。これまでの先人たちの努力の積み重ねが、今日の様々な教育制度や施策につながっていることは決して忘れてはいけません。その一方で、社会の変化の速度はますます急激になり、加えて、物事の不確実性が高く、将来の予想が困難な時代だと言われています。そうした社会の中で必要とされるPTAであるために、私たちは問いを立て続け、変化を遂げていかなければなりません。

また、今年8月の全国大会石川大会においては、災害時におけるPTAの役割について、地域社会や学校と連携しながら、復興を支えてきたことについて、幅広い観点から多くの示唆を得ることができ、大変有意義な機会となりました。PTAは、わたしたちが困難な状況に陥った時、支え合いのネットワークと実行力を活かし、乗り越える力を有しています。そして、これからもそのような役割を力強く果たしていくためにも、持続可能なPTAの在り方を摸索していくことが求められています。

結びに、本大会が今後のPTA活動の活性化につながり、それが子供たちの豊かな教育環境の充実、そして幸せや笑顔につながることを心より願っております。また、開催にあたりこれまでご尽力いただきました稚内市連合PTA、宗谷管内PTA連合会、北海道ブロックPTA協議会、並びに、北海道教育委員会、稚内市教育委員会をはじめとする、関係各位の皆様にご心より敬意と感謝を表します。あわせて全国のPTAが一層の発展を遂げることをお祈り申し上げ、あいさついたします。

ご挨拶

北海道議会議長

伊藤 条一



第72回日本PTA北海道ブロック研究大会宗谷管内・稚内大会が、全道各地から多くの皆様のご参加のもと、稚内市において盛大に開催されますことを、心からお慶び申し上げます。

ご参会の皆様には、日ごろから、児童・生徒の健全な育成にご理解をいただき、PTA活動を通じて、学校教育の振興や地域における教育環境の充実に格段のご尽力を賜り、心から感謝申し上げます。ここに、全道のPTAの皆様が一堂に会し、「てっぺんから広げよう！子育ての輪と和と話」の大会スローガンのもと、家庭教育や学校支援、地域連携などの分科会や基調講演において、研鑽や交流を深められることは、これからの新しい時代の教育環境を創造していく上で、大変意義のあることであり、大きな成果を収められることをご期待申し上げます。

さて、本年6月に国が発表した令和6年の北海道の合計特殊出生率は1.01と過去最低を記録し、全国を上回るペースで少子化・人口減少が進行しており、さらにデジタル技術の飛躍的な進展や脱炭素・ゼロカーボンの推進、また、人々の意識や価値観、生活様式の多様化など、本道を取り巻く社会経済環境は一層複雑化してきております。

このように社会が目まぐるしく変革する中、PTA活動の担い手である、保護者の労働環境や労働意識、家族の在り方も大きく変化しており、人口減少傾向が続き、子どもも保護者の数も少なくなりつつある状況において、PTAだけでなく、社会全体として人的資源の有効活用が大きな課題となっております。

こうした中、本道が将来にわたり活力ある地域として発展していくためには、子どもたちが自らの可能性を発揮し、未来を切り拓いていく力を身につけることがこれからの学校教育により一層求められており、様々な課題を前向きに受け止め、新たな発想と知見を取り入れながら、グローバルな視野で新しい時代の要請に挑戦し続けられるよう、しなやかに社会を生き抜く力を育てていくことが重要であります。言うまでもなく、未来の北海道を切り拓く人材は、皆様が、日ごろ実践活動を通じて教育に勤しんでおられます子どもたちです。

私も北海道議会といたしましても、国や市町村など関係機関と連携を深めながら、これまで以上に北海道における学校教育の強化に力を尽くして参る所存でありますので、皆様におかれましても、本大会を通じて、相互の交流を深められ、次世代を担う子どもたちの健やかな成長のために、家庭・学校・地域が手を取り合い、これまで培った豊富な知識と貴重な経験をもとに、子どもたちが夢や希望を持って学ぶことができる教育環境の充実に向けて、一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びとなりますが、本大会のご成功と、日本PTA北海道ブロック協議会のますますのご発展をお祈り申し上げますとともに、本日お集まりの皆様のご健勝、ご活躍を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

ご挨拶

北海道教育委員会

教育長 中島 俊明



第72回日本PTA北海道ブロック研究大会宗谷管内・稚内大会が、全道各地から多数のPTA関係者の皆様の御出席のもと、盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

皆様におかれましては、少子化などにとまなう会員の減少などのご苦勞の多い中、長きにわたり、それぞれの時代における課題に向き合い、子どもたちの健やかな成長のため、PTA活動を継続し、成果をあげておられることに、深く敬意を表します。

さて、地球規模で進む気候変動やDX・GXの進展など社会が加速度的に変化する中、子どもたちが自分らしく成長し、安心して学んだり、生活したりできる社会の実現に向け、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を認識し、相互に連携・協力していくことが、重要となっております。

また、子どもたちが直面する課題は一層複雑かつ多岐にわたっており、SNSを介したトラブルや情報過多といったデジタル機器に関する問題、昨今減少しているとされる直接的な人とのコミュニケーションの取り方など、刻一刻と変わる教育課題に子ども自身が主体的に関わり、課題を解決する力を養うことができるよう、私たち大人も新しい情報を収集し、共に学び、PTA活動もアップデートしてい

くことが求められています。

こうした中、本研究大会において「未来を担う子どもたちの今とこれからの幸せ（Well being）を願い、学び合い、連携し合うPTAをめざして」の大会主題のもと、2日間にわたり、「家庭教育」や「地域連携」、「中学生討論会」など多様な領域の分科会や講演により、学びを深められることは、次代を担う子どもたちが社会的に自立し、自らの力で豊かな人生を切り拓いていくために、極めて意義深いものと思います。

北海道教育委員会としましても、子どもたちが自らの可能性に気づき、前向きに生き抜く力を育めるよう、ICTを活用した学びの充実、家庭の経済状況に左右されない学習環境の整備、学校と地域の連携による人材育成など、子どもたちの未来を見据えた教育の充実に取り組んでおりますので、引き続きの御理解と御協力をお願い申し上げます。

結びに、本研究大会が、会員相互の繋がりや理解を深める機会となり、実り多いものとなりますことを期待申し上げますとともに、日本PTA北海道ブロック協議会の一層の御発展と皆様の御健勝を心よりお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

ご挨拶

稚内市教育委員会

教育長 佐伯 達也



第72回日本PTA北海道ブロック研究大会宗谷管内・稚内大会が盛大に開催されますことをお祝い申し上げますとともに、稚内市にお越しいただきました関係者の皆様を心から歓迎申し上げます。

また、皆様におかれましては、日頃から、家庭や地域における教育環境の充実をはじめとする子どもたちの健全育成にご尽力されておりますことに深く敬意を表する次第であります。

本大会は、北海道内のPTA活動について情報交換や議論を通じて研鑽と交流を深める、非常に意義深いものであり、このたび本市において開催されますことを大変光栄に存じます。

さて、今日の子どもたちを取り巻く教育環境は、かつてないほど複雑かつ多様化しており、GIGAスクール構想に象徴されるデジタル化の急速な進展、AI技術の活用、グローバル化など、社会の変革は目まぐるしいスピードで進み、私たち大人も、子どもたちと共に新たな学びに向き合う必要に迫られております。また、核家族化や共働き世帯の増加により、地域社会の子どもの社会性を育む機能の脆弱化が懸念されており、学校と家庭、そして地域との連携がより一層強く求められているところです。

本市では、1978年（昭和53年）から「市民ぐるみの子育て運動」を推進してまいりました。これは、家庭、学校、地域が相互に協力し、それぞれの教育力を高め合うことを目的とした、時代を超越した普遍的な運動であり、本市で長年育まれてきた貴重な財産です。

本大会のテーマ「てっぺんから広げよう！子育ての輪と和と話」は、まさに本市がこれまで掲げてきた教育理念と深く共鳴するものでありますし、各分科会では、学校支援や家庭教育、地域との連携など、現代の子育てを取り巻く多様なテーマが議論され、記念講演では宮沢和史氏が「戦後80年を迎えて～沖縄と北海道から平和を願う～」と題して、平和への願いをお話しいただくと伺っております。本市においても、これまで積み重ねてきた「子育て運動」を土台として、学校、家庭、地域が連携のもと、誰一人取り残さない教育の実現を目指していこうという思いを強くしているところであります。

子どもたちが平和の中で、明るく健全な家庭と地域、そして生き生きと学べる学校で過ごすことは、私たちの変わらぬ願いです。

本大会の開催を通じて、子どもたちの未来に向けた平和への意識を深めるとともに、多岐にわたる内容の実践発表や討議が今後の活動のヒントとなり、地域に根差したPTA活動が、より一層推進されますことをご期待申し上げます。

結びになりますが、本大会の開催にご尽力いただきました日本PTA北海道ブロック協議会をはじめとする関係各位に深く敬意を表しますとともに、大会のご成功と、ご参集の皆様の今後のご健勝、ご活躍を心から祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

大会日程

○第1日目 10月4日(土)

11:45 12:00 13:30 14:00 17:00 18:00 20:00

運営者 受 付	運営打合せ準備作業 (分科会毎)	受付	開会式・分科会 ※開会式は各会場にて開催※	休憩・移動	情報交換会 サフィールホテル稚内
------------	---------------------	----	--------------------------	-------	---------------------

○第2日目 10月5日(日)

8:30 9:00 9:15 10:00 11:30 12:00

受付	アトラクション	全 体 会	記念講演	閉会行事
----	---------	-------	------	------

.....

分科会構成およびテーマ

領 域		分科会テーマ	提 言 担 当
第1分科会	組織運営	学校を支えるためにPTAと地域ができること	函館市PTA連合会
第2分科会	家庭教育	生活リズムを考える ～親子の絆を育む家庭教育の重要性～	日高地区PTA連合会 (浦河第二中学校PTA)
第3分科会	学校支援	学校・子ども・保護者が笑顔でつながり合える学校支援のあり方	札幌市東区PTA連合会
第4分科会	地域連携	子育てを支える学校と地域のつながり	札幌市白石区PTA連合会
第5分科会	食育・情報	会員のニーズに対応した情報発信と取組	旭川市PTA連合会
特1分科会	中学生討論会	明日も通いたくなる学校ってどんな学校？	稚内市連合PTA・南地区 (稚内南中学校PTA)
特2分科会	地域課題	「命の参観日」玉城ちはる氏による講演	稚内市連合PTA (潮見が丘小学校PTA)

全 体 会

会 場 稚内総合文化センター 大ホール

日 程 2025年10月5日(日)

I.受 付 8:30～9:00

II.オープニングアトラクション 9:00～9:15

III.全体会 9:15～10:00

- | | | | |
|-----|----------|------------------------|-------|
| (1) | 開会の言葉 | 宗谷管内・稚内大会実行委員長 | 出村 賢志 |
| (2) | 国歌斉唱 | | |
| (3) | PTA の歌斉唱 | | |
| (4) | 主催者挨拶 | 宗谷管内・稚内大会 大会長 | 廣瀬 堅一 |
| (5) | 来賓祝辞 | | |
| | | 稚内市長 | 工 藤 広 |
| | | 公益社団法人日本 PTA 全国協議会 副会長 | 宿南 洋一 |
| (6) | 来賓紹介 | 札幌市 PTA 協議会 副会長 | 先名 孝亘 |
| (7) | 祝文・祝電 披露 | 北海道 PTA 連合会 副会長 | 高橋 梨絵 |
- ※北海道 PTA 連合会の「委員会活動報告」は大会要項 P30に記載しております。

IV.記念講演 10:00～11:30

- (1) 講師紹介
- (2) 講 演
- 演題 『 戦後 80 年を迎えて ～沖縄と北海道から平和を願う～ 』
- 講師 シンガーソングライター ・元 THE BOOM ボーカル ・俳優
- 宮沢 和史 氏

- (3) 謝 辞 北海道 PTA 連合会副会長 清水 武志

V.記念講演 11:30～12:00

- (1) 感謝状贈呈
- (2) 大会旗引き継ぎ
- (3) 次期開催地挨拶 道南大会実行委員長 秋山 慎一郎
- (4) 閉会の言葉 宗谷管内・稚内大会 副大会長 高原 周作

記念講演

演題

『戦後 80 年を迎えて ～沖縄と北海道から平和を願う～』

講師

シンガーソングライター

俳優

元 THE BOOM ボーカル

みやざわ かずふみ
宮沢 和史 氏

1966 年山梨県甲府市生まれ。1989 年に THE BOOM のボーカリストとしてデビュー。

これまでに THE BOOM として CD を 14 枚、ソロでは 7 枚、多国籍バンド GANGA ZUMBA として 2 枚リリースしている。2014 年 THE BOOM 解散後、しばらく充電期間を持ち、2018 年より歌手活動を再開。2022 年は代表曲「島唄」を発表して 30 年、沖縄日本復帰 50 年にあたり、沖縄・日本本土で精力的に音楽活動を展開した。代表曲のひとつ『島唄』はアルゼンチンの音楽賞を 3 部門受賞。今なお広い地域で愛されている。

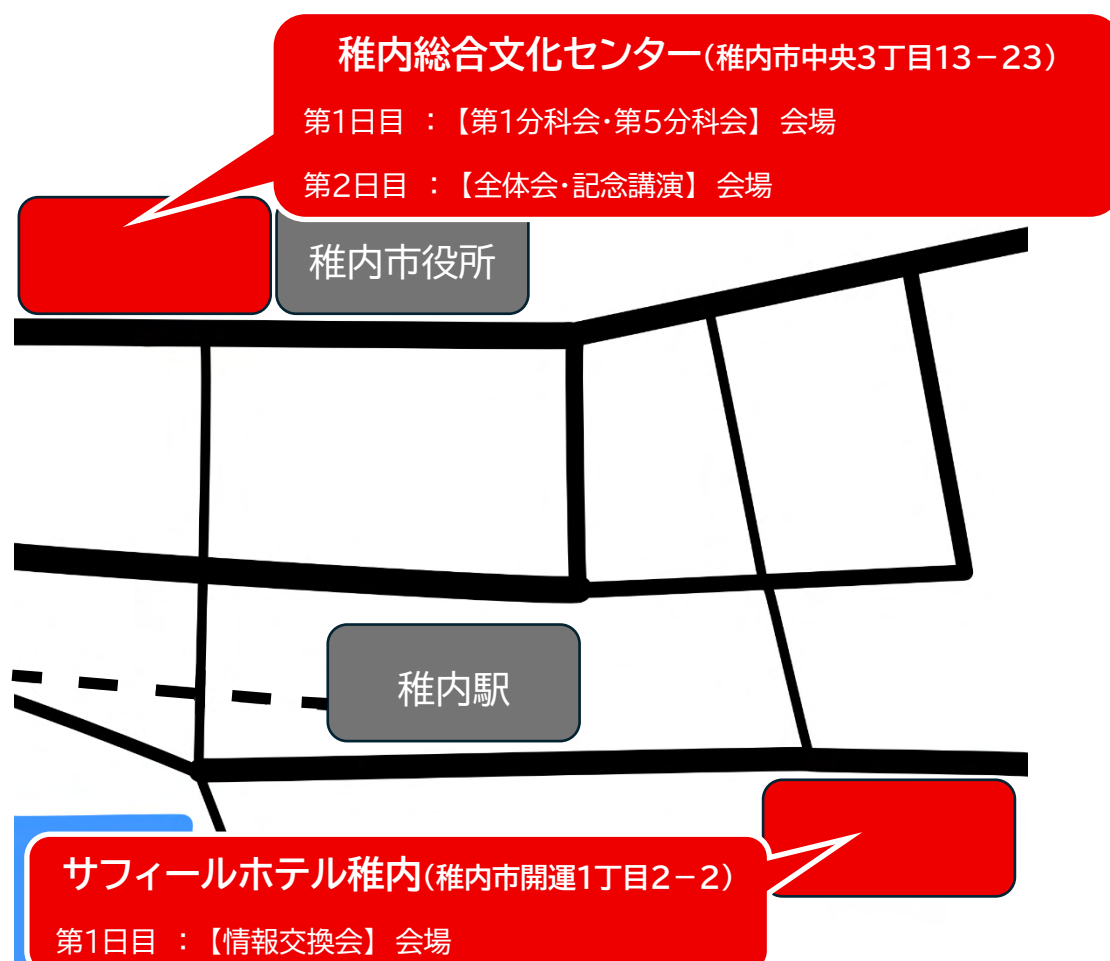
作家としては、中孝介、大城クラウディア、岡田准一、喜納昌吉、KinkiKids、小泉今日子、坂本龍一、島袋寛子、SMAP、高橋幸宏、ディアマントス、夏川りみ、平原綾香、MISIA、矢野顕子など数多くのアーティストに楽曲や歌詞を提供。

2024 年にデビュー 35 周年を迎え、アルバム「～ 35 ～」をリリース。

現在 沖縄芸術大学で非常勤講師を務める。



会場案内図



分科会(稚内市内7会場 開催)

- 第1 稚内総合文化センター 小ホール (稚内市中央3丁目13-23)
- 第2 稚内東中学校 体育館 (稚内市潮見5丁目1-29)
- 第3 稚内東中学校 図書スペース(1F) (稚内市潮見5丁目1-29)
- 第4 稚内南小学校 (稚内市緑1丁目11-8)
- 第5 稚内総合文化センター美術室 (稚内市中央3丁目13-23)
- 特1 稚内南中学校 (稚内市緑1丁目2561)
- 特2 潮見が丘小学校 (稚内市富岡4丁目3-3)

第 1 分科会【 組 織 運 営 】

学校を支えるためにPTAと地域ができること

協議の柱

1. 函館市の取組から学ぶ、私たちにできる安全環境づくり
2. 学校を支える意義と私たちにできること



	役 職 名	氏 名	所属単 P 名, 他
提 言 者 ・ 実践発表者	函館市 P T A 連合会 副会長	小林 庸一	函館市立巴中学校 P T A 会長
P C 担当	函館市 P T A 連合会 事務局員	大橋 香代子	函館市 P T A 連合会事務局
司 会 者	函館市 P T A 連合会 事務局長	中村 和代	函館市 P T A 連合会事務局
助 言 者	稚内市立富磯小学校 校長	内山 淳司	稚内市立富磯小学校長
運 営 者	単 P 事務局	遠藤 敦志	稚内市立大岬小学校 P T A 事務局
運 営 者	単 P 役員	須藤 未佳子	稚内市立大岬小学校 P T A 会役員
記 録 者	単 P 事務局	下山 康弘	稚内市立天北小中学校 P T A 事務局
運営委員長 (分科会責任者)	単 P 会長	本間 寛隆	稚内市立大岬小学校 P T A 会長

第1分科会 提言要旨

子ども達の安心安全な環境づくりを目指して ～PTAと地域ができること～

提言者 函館市PTA連合会

副会長 小林 庸一（函館市立巴中学校 会長）

1 函館市PTA連合会について

昭和50年6月10日に設立され、今年度設立50周年を迎えました。現在57単位PTA（小学校39校・中学校17校・義務教育学校1校）で組織しています。

令和7年度の役員は、会長、副会長、委員会（広報・研修・厚生・調査）委員長・副委員長、子育て委員会副委員長・委員、監査、顧問、事務局の計47名で構成しています。

特色ある事業として、単P会長研修・交流会（年2回）、会報発行（年2回・全戸配布）、青函PTA交流会、教育長と教育予算要望の懇談、新年交礼会、情報ハンドブックの公開など。詳細は市P連のHPをご覧ください。

<http://hakodate-pta.com/>

2 函館の現状と取り組み

函館市では平成28年度より小中学校の再編・統合（一部統合含む）が始まりました。当時は小学校47校・中学校25校（計72校）ありましたが、令和7年度には小学校39校・中学校17校・義務教育学校1（計57校）と9年間で激減しました。それまでもPTAや町会等が児童生徒の登下校を中心に見守りをしていましたが、学校の統合で校区も行動範囲も広くなり、小学校においては放課後を過ごす環境に関しても保護者や学校から不安の声があがりました。

令和元年度、市内の全市立学校に学校運営協議会が設置され、コミュニティー・スクール（CS）も導入となりました。

令和2年度には地域コーディネーター（元PTA会長など）8名が配置され、単Pと地域が一緒に考え、活動する機会が増えました。その一つに見守り活動があり、今年【児童生徒の安心安全と見守りの現状】についてのアンケートを実施し、小学校29校、中学校6校、そして義務教育

学校がそれぞれ《PTA単独》もしくは《CSや地域と連携》して見守り活動を行なっていることが確認できました。

3 見守り活動について（取組み事例）

平成31年、3つの小学校が統合し500人を超える児童が登下校することになった大森浜小学校では、児童の安心安全を地域全体で守るための活動について、地域コーディネーターの協力を得ながら考えました。

その結果、児童の登下校時や放課後等に自宅の周りで安心の目印《オレンジバンダナ》を身に付けて行なう《子ども見守り隊》が立ち上がり、この活動に賛同したPTA会員111名と町会62名の計173名の登録がありました。2年目からは新入学児童保護者へ案内し、新規登録は25名でした。

現在、PTAとしての見守りはサポート活動へと移行され、年度初めに《安心・挨拶サポーター》を募り、町会やと協力し各学期の始業・終業式の日に登下校の見守りを行っています。町会は一定数の見守り隊員がいるため、毎年の募集はしていません。

4 まとめ

函館市内の小中学校では子ども達の安心安全な環境づくりのために、単PだけではなくCSや町会などの組織と連携し、地域全体で児童生徒を見守る動きがあります。また、PTAを卒業しても地域の大人として児童生徒を見守る持続的な活動にもつながっていることから、市P連としてもこれらの取り組みをHPや研修会等で発信し、函館市全体の取組みとなるよう単Pを支えていきたいと考えています。

第 2 分科会 【 家 庭 教 育 】

生活リズムを考える

～親子の絆を育む家庭教育の重要性～

協議の柱

1. 乱れがちになる夏休み、冬休みの生活リズムの確立を意識した取組について
2. 長期休業中の過度なメディア利用を防ぐ取組について



	役 職 名	氏 名	所属単 P 名, 他
提 言 者 ・ 実践発表者	浦河第二中学校 P T A	森 真治	浦河町立浦河第二中学校・校長
司 会 者	日高地区PTA連合 会事務局長	佐藤 恵美	様似町立様似中学校・校長
助 言 者	健康運動指導士	門間 奈月	宗谷健幸人プロジェクト代表・教育委員
運 営 者	稚内市立稚内東中学校 校長	吉崎 健一	稚内市立稚内東中学校PTA事務局
運 営 者	稚内市立稚内東小学校 副会長	谷口 亮介	稚内市立稚内東小学校PTA役員
記 録 者	稚内市立声間小学校 校長	末村 哉子	稚内市立声間小学校PTA事務局
運営委員長 (分科会責任者)	稚内市立稚内東中学校 PTA会長	池田 光彦	稚内市立稚内東中学校PTA役員

第 2 分科会 提 言 要 旨

「家族で取り組む規則正しい生活リズムの確立」 ～朝活30の取組を通して～

提言者 浦河第二中学校 PTA
森 真治

【1】浦河第二中学校の紹介

- 今年度創立79年という長い歴史がある学校だが、今年度をもって閉校となる。
- 同一校区の浦河東部小学校と隣接しており、連携・協力体制をとっており、専門部会や役員会などを合同で行っている。
- 生徒数19名4学級(特別支援学級1学級)
- 主な PTA 活動
 - ・研修部:各 PTA 研究会への参加の促進
 - ・厚生部:校地内の環境整備、体育大会の協力
 - ・学年 PTA:各学年の親子レクの企画推進
 - ・夏、冬休み期間中に実施する『朝活30』
- CSとPTA 地域連携の活動
 - ・地域と連携した防災教室の取組

【2】生活リズムの課題～休み中の過ごし方～

子どもの寝る時間が遅い、睡眠時間が少ない、朝起きるとボーっとしていたり体調がよくなかったりなど、子どもたちの生活習慣・リズムを改善したいと感じているご家庭は少なくないと思います。

特に学校がない夏休みや冬休みは、テレビやデジタル端末の見過ぎによる夜更かしや、朝寝坊などで生活リズムが乱れがちです。

子どもたちの健やかな成長のために、生活リズムを整えることは非常に大切ですが、有効な手立てをたてられず、何かいいものはないかと悩んでいるご家庭が本校でも多くあり、役員会の中でも時折話題に上がっていました。

【3】家族で考え、話し合うきっかけ作り

本校の生徒指導の一つとして取り組んでいた『朝活30』を、生活リズムが乱れがちな夏・冬休みの活動として、取り組んでみてはどうかと PTA 役員会の中で話題になり、取り組むようになったのが始まりでした。

読書や家事などの手伝い、体力作りなど朝に取り

組みたいことを生徒自身が考え、保護者と相談しながら取り組むという内容です。また、記入する中身も生徒と保護者両方の負担にならないように工夫していきました。

忘れてしまったり怠けてしまったりする時もありますが、その都度声掛けをしたり、生活習慣について話し合ったり、生徒が考えるきっかけになったりするなどの効果が見られました。

【4】デジタル機器・メディアの過度の利用を防ぐ

子どもたちの生活習慣の変化は、現代の生活様式の変化や、アウトメディアの依存や過度の利用が原因の一つと思われます。端末やゲームは、子どもたちには魅力的であり、手放すことができないものかもしれません。休み期間中は、さらにその利用時間が多くなってしまい、新学期に影響を及ぼすこともあります。

朝活30の活動を通して、改善が見られたところもあれば、あまり変わらなかったこともあったようですが、家族で話し合うきっかけ作りになったという家庭もあったと聞きました。

子どもも長い時間ゲームばかりやるのはよくないと頭では理解しているようです。でもつい誘惑に負けてしまい、ダラダラと過ごしてしまう、それが現状のようです。その状況を直していくために、話して、振り返って見つめ直す機会をつくり、自分なりの行動目標を立てて、取り組んでいるところを褒めて、認めてあげられたらと思います。

【5】今後に向けて

冒頭で述べた通り、本校は今年度をもって閉校となります。今まで続けてきたこの活動も、来年度も続けられるかはわかりません。しかしながら、生活リズムを整えていくこと、家族での会話を減らさないようにすることを心がけ、これからも生活リズムの改善に取り組んでいけたらと思います。

第 3 分科会 【学 校 支 援】

「学校・子ども・保護者が笑顔で つながり合える学校支援のあり方」

協議の柱

1. 学校の実態に即した学校支援のあり方
2. 連携が深まり、持続可能なこれからの学校支援
3. 「語り合おう ～笑顔が広がるために」



	役 職 名	氏 名	所属単 P 名, 他
提 言 者 ・ 実践発表者	札幌市東区P連 副会長	八乙女 伸江	札幌市立栄南中学校PTA
	札幌市立栄南小学校 前PTA会長	安田 康司	札幌市立栄南小学校PTA
司 会 者	札幌市東区P連 副会長	加藤 真里	札幌市立栄南小学校PTA
	札幌市東区P連 事務局長	村上 裕子	札幌市東区PTA連合会
助 言 者	稚内市CS統括Co	本間 正博	宗谷・稚内市
運 営 者	豊富町PTA連合会PTA 会長	菅原 真幸	豊富町PTA連合会
運 営 者	猿払村PTA連合会 事務局長	高橋 正一	猿払村立PTA連合会
記 録 者	幌延町PTA連合会 事務局	梅坪 敬一 平沼 智史	幌延町PTA連合会
運営委員長 (分科会責任者)	猿払村PTA連合会 会長	横山 脩兵	猿払村PTA連合会

笑顔でつながり合える学校支援のために～区P連ができること

提言者 札幌市東区 PTA 連合会副会長
札幌市立栄南中学校 PTA 副会長 八乙女 伸江

1.はじめに

札幌市東区に公立の小・中学校、義務教育学校は合わせて40校あり、東区PTA連合会は「心身ともに健康な子どもを育てるために楽しくPTA活動を進めよう」をテーマに、各校のPTAと連携を図りながら活動を推進しています。今年は創立40周年という節目を迎えました。コロナ禍を経て、PTA活動は一部で従来の形に戻りつつありますが、多くの学校では参加しやすさや参加の意義が感じられるような活動の工夫を模索しているところです。区P連は各PTA間の情報交流が活性化していくように、交流の場や方法の広がりを目指して活動しています。

2.各校で取り組む学校支援

東区内40校に、改めて実施した学校支援に関するアンケートによると支援の内容として「登下校時の安全見守り」(58.3%)、「花壇整備・草とり・水やり」(54.2%)、「校内清掃」「環境整備」(ともに50%)が多く挙げられました。さらに「スキー学習サポート」「地域のパトロール見守り」が約40%と続きます。学習発表会や学校祭支援、地域行事への協力も約3割の学校で行われており、学校や地域と連携した活動も実施されていました。各PTAの活動から、学校の状況にあわせた様々な取組の工夫が見えました。

【多様な支援とボランティアの活用】 A小学校の学校支援

安全の見守り、図書館支援、スキーや水泳授業の学習支援、校外学習の付添い、プールや教室設置扇風機の清掃、行事の支援と開催、学校運営協議会・地域学校協働活動への参加等、幅広い内容の学校支援を、ボランティアを導入して実施した。ボランティア導入後は参加率が高まり、活動へ参加した保護者から「楽しかった。」という声が多く聞かれるようになった。

【他機関との連携】 B中学校の学習支援

学校からの依頼で、全校道徳の授業のために札幌市PTA共済会安全普及啓発事業に応募し実施した。

当日は東日本大震災を体験した語り部を招待し、進行の手伝いをPTAが行う中、保護者と子どもたちがともに学び災害へ意識を高めることにつながった。

【つながりを生み出す場の創出】 C中学校の行事支援

学校祭で保護者や地域の方を対象にカフェを設置した。PR活動の効果もあって当日は学校祭へ多くの参加があり、子どもたちの発表もたいへん盛り上がった。カフェも盛況で、コロナを通して希薄になった保護者や地域の方々のつながりを生む一助にもなった。

他にも様々な取組があり、人手不足や保護者の意識の変化など活動への課題がある中でも、「参加に自由度がある関わり方や場の提示」、「活動の内容や成果の可視化と情報共有」、「地域資源との連携」、「喜びや達成感の共有」等を考慮しながら、工夫に努める各校の足跡が見えました。

3.これからの学校支援 ～区P連ができること

多くの学校では教職員の業務が多岐にわたり、人手不足が深刻化しています。その中で、保護者による支援は大きな力となり、多様な活動が学校運営を支えることにもなっています。人々のつながりが希薄になっている中で、子どもの成長を願い学校・保護者・地域がつながり合いながら活動することは、安全・環境・学びの質を高めるだけでなく、将来的に子どもを取り巻く地域社会を豊かにすることにもつながります。

東区P連は各PTAをつなぐ情報交流の場として、会長会・副会長会・出向委員会等において対面の交流の場を大切にすると同時に、会員の参加しやすさや効率性を考慮し、LINEワークスなどICTの活用も進めています。区P連や各PTA間のつながりがより豊かなものになるよう模索しているところです。

変化の激しい社会の中でも、子どもたちの笑顔を中心につながり合いながら、少しずつでも取り組める持続可能な学校支援のために、さらに研鑽に努めていきます。

第 3 分科会 提 言 要 旨

学校・子ども・保護者・地域が

笑顔でつながり合える学校支援のあり方

提言者：札幌市立栄南小学校
前 PTA 会長 安田 康司

1. はじめに

本校は、札幌市東区北部に位置し、近隣には丘珠空港や札幌市営地下鉄の「新道東駅」、「栄町駅」があるアクセスの便利な立地となっています。

また、「さとらんど」、「モエレ沼公園」といった自然豊かな公園や札幌黄といった玉ねぎの名産地でもあります。

今年度で開校 49 周年を迎える学校です。

2. PTA 活動について

本校の PTA 活動は、令和 5 年度より誰もが気軽に参加できる PTA を目指し、各委員会を自主参加制とし、PTA 事務局の業務軽減を図ることを目的に PTA サポーター制度を創設しました。

PTA 活動に参加できない、参加しづらいといった保護者の増加で ICT の活用も推進しました。

例えば、運営委員会などを書面開催として、学校のホームページや「すぐる」などからお手紙や書類を確認できるようにしました。

各委員会の連絡は LINE のオープンチャットを活用しています。

PTA で Google アカウントを作成し、委員さんからの連絡をメールでやりとりしたり、アンケートなどは Google フォームから集計をとったりしています。

PTA 事務局内での情報共有は、グループ LINE や LINE WORKS を活用しています。

ただし、人と人とのつながりや信頼関係の熟成は会って見ないと得ることができないので「Face to Face」の機会も大事にしています。

PTA の主な活動

事業名	
・資源回収	・栄南盆踊り体験
・ふれあいまつり	・給食試食会
・交通安全指導	・おやじの会主催事業
・校区見回り	(運動会路上監視)
・花トピア	(学習発表会路上監視)
・クリスマスツリー	(栄南盆踊り企画・運営)
飾り付け	(花壇整備)
・イオン黄色いレシート	(えいにゃんらんど)
キャンペーン	(ドッジボール大会)

3. サタデースクールからはじまった「栄南盆踊り体験」

PTA としての活動範囲は、学校との連携により教職員及び保護者に限っての活動となります。

せっかく学校を通して作り上げられたコミュニティや PTA 活動で培ったスキルを持った地域の方々と学校がつながるツールの構築が必要ではないかと考えました。

そこで本校では、平成 30 年度からサタデースクール事業の一環として、「栄南盆踊り体験」を実施することになったことをきっかけに、おやじの会が中心となって企画、運営を行い、地域の方々へこのイベントに参画していただくよう呼びかけ、協賛やご協力をいただき開催することにしました。

令和 7 年度からは、コミュニティ・スクールという枠組みの中で「栄南盆踊り体験」を実施することになりましたので、より一層、地域の方々や町内会、企業、行政などと連携して学校支援の推進を図ることにしました。

4. 学校、保護者、地域と連携が深まり持続可能なこれからの学校支援

これからの学校支援は、地域と学校とのつながりが今まで以上に必要になると感じます。

地域学校協働活動事業は、「地域住民、学生、保護者、NPO、企業、団体等の幅広い地域住民等の参画を得て、学校を含む地域全体で子どもたちの学びや成長を支える、地域と学校が連携・協働で行う様々な活動のこと。」と謳っています。

保護者は子どもが卒業すると地域の人材になり、その人材が学校を支援することで、持続可能な学校支援ができるのではないかと。

また、その地域の方々の姿を見て子どもたちがやがて大人になった時に、その地域や移り住んだ町で PTA や町内会に携わることにより新たな学校支援の循環が生まれるのではないかと考えます。

第4分科会 【地域連携】

子育てを支える学校と地域とのつながり

協議の柱

1. 「地域・学校～人と人をつなぐキラリ☆人」
2. 「これからのPTAの在り方を探る！」～思い描く学校と地域の連携とは



	役 職 名	氏 名	所属単P名, 他
提 言 者 ・ 実践発表者	白石区P連会長	安藤 慎也	札幌市立柏丘中学校 P T A副会長
	白石区P連副会長	小林 秀子	札幌市南郷小学校 P T A副会長
司 会 者	枝幸町P連 事務局次長	青柳 隆司	歌登小学校P T A事務局長
助 言 者	稚内市教育相談所 所長	佐々木 康	稚内市教育相談所
運 営 者	枝幸町P連事務局	俵 あゆ子	歌登小学校長
運 営 者	上記他 数名		
記 録 者	歌登小P 副会長	大塚 真央	宗谷管内PTA連合会子育て委員
運営委員長 (分科会責任者)	枝幸町P連会長	滝口 智也	歌登小学校P T A会長

第4分科会 提言要旨

「子育てを支える学校と地域のつながり」

これからの PTA の在り方を探る！

～思い描く学校と地域の連携とは～

提言者 札幌市白石区 PTA 連合会
会長 安藤 慎也

1. はじめに

少子化や共働き世帯の増加により、PTA や地域活動への参加者は減ってきています。

「忙しい」「役割が重い」といった理由は自然なことかもしれませんが、その一方で、学校・地域・家庭のつながりが少しずつ薄れていくようにも感じます。だからこそ、今あらためて PTA の存在意義や、これからのあり方を見つめ直す時期に来ているのではないのでしょうか。

2. 経験を通じた気づき

(1) 12 年間の PTA 活動を通して

私はこれまで 12 年間、PTA の役職や行事や運営などに関わってきました。

その中で一番強く感じたのは、「自分は子どもにこそ育てられた」ということです。たしかに、忙しくて大変な時期もありましたが、仲間や先生、地域の方々との関わりが、私にたくさんの学びと気づきを与えてくれました。

(2) 「保護者・地域・先生」が語り合い学び合う場として

PTA は単なる保護者の集まりではなく、学校や地域とつながる「対話の場」でもあります。関わり方は人それぞれでいいと思います。行事の一部にだけ参加する、地域活動に顔を出す、子どもと一緒に体験する——そんな小さな一歩から始められる仕組みがあれば、新しい楽しみや発見が広がります。

また、双方向の対話を重ねることで、「今の子どもたちに何を残すか」「未来の地域にどんな橋を架けるか」を一緒に考えられるようなかけがえのない場にもなります。

(3) 大人にとっての成長する「もうひとつの学校」

PTA は、子どもたちの未来だけでなく、私たち大人の未来もそっと照らしてくれる存在だと感じます。

「親になるための学校」ではありませんが、親として、そして一人の大人として成長できる場所です。仲間と本音で語り合い、学び合う時間は、自分をもう一度育ててくれるような大切なひとときです。

PTA は、大人にとって“もうひとつの学校”なのだと心から思います。そして、この“もうひとつの学校”での学びや出会いは、これからの PTA の形を考える上での大切な土台になっていると感じています。

だからこそ、変えていく部分と、ずっと大切に守っていききたい部分、その両方を見つめながら歩んでいきたいのです。

3. おわりに

無理に新しいものを生み出す必要はないと思います。先にお伝えしたように、PTA は子どもたちの未来だけでなく、大人の未来も照らしてくれる存在です。

必要に応じて形を柔軟に見直しながらも、受け継ぐべき価値はしっかり守り、学校と地域が新しい形で手を取り合える PTA を、これからもみなさんと育てていきたいと思います。



第4分科会 提言要旨

「子育てを支える学校と地域のつながり」

「地域・学校～人と人をつなぐキラリ☆人」

提言者 札幌市立南郷小学校 PTA

副会長 小林 秀子

1. はじめに

子どもたちが育つ環境には、必ず人とのつながりや関わりが不可欠ではないでしょうか。さまざまな環境で育つ子どもたちの為に、日々奮闘している大人たちの存在にフォーカスし、学校が考える地域連携とPTAができる地域連携を皆様と共に考えていきたいと思えます。

2. 繋がる地域の底力～活動の紹介～



合格祈願雪像づくり



読書ボランティア



『雪フェス』～雪合戦～



しごとの『ゆめ時間』

その他にも有志保護者による防災学校キャンプや街路樹花壇づくり、中学生による有志生徒会での地域除雪ボランティアなど…

さまざまな活動が行われております。

3. 現状と課題

地域においては、高齢化もあり催事開催に地域役員だけでは立ち行かなくなり、縮小検討の実態もあるようです。PTAにおいても活動する上でここ数年、保護者や教師の意識も変化してきており、支障や困難な原因もあるのではないのでしょうか。その上で、活動の視点や相互のアイデアを出し合う『対話の場』を工夫する努力も大切ではないかと、強く感じます。

4. 「キラリ☆人」の声

★しごとの『ゆめ時間』主催の方からのお声

Q子どもと共に何を学んでいますか？

⇒多くの職業があることを子どもたちに伝えつつ、参加する大人たちも異業種交流の場となっており、楽しんでおります。

Qこれから先、子どもと共に何を学んでいきますか？

⇒“大人になること”、“働くこと”を子どもたちが楽しみと思えるように、

『知る=面白い！』の場を提供し続けたい。



★地域ボランティアをしている方からのお声

Q子どもと共に何を学んでいますか？

⇒読み聞かせを行った際は、読み聞かせ後に感じたことを話してもらい、気持ちを共有することができます。

Qこれから先、子どもと共に何を学んでいきますか？

⇒小中学校に地域活動を通

じて経験したことを

思い出として、『ふるさと』

を大切にすることを育みたいと

考えております。



5. 今後に向けて～未来の子どもたちにつなぐ～

先輩から引き継いだ“想い”をさらに進化・発展できる取組を、大人である私たちが子ども同様想像し、学んでいける場を。

人とのつながり、想いの共有、楽しむことの大切さをつないでいける場を。

PTAがあるからこそできることがあるのだと思っております。

学校と地域、そしてPTAがより良い関係で、子どもたちの“居場所”となる環境を作れるよう、これからの活動を楽しんで参ります。

第 5 分科会 【 食育・情報 】

「会員のニーズに対応した情報発信と取組」

協議の柱

会員が主体的に参加するための地区P連の活動及び情報発信とは
 どのようなものか実際に研究会を企画してみよう！！



	役 職 名	氏 名	所属単P名, 他
提 言 者 ・ 実践発表者	副会長	鎌本 かおり	旭川市PTA連合会、北海道PTA連合会
	副会長	踊場 啓通	旭川市PTA連合会
司 会 者	副会長	中込 葵	旭川市PTA連合会
	事務局長	鈴木 玲子	旭川市PTA連合会
助 言 者	教育部長	芳村 桐子	稚内市教育委員会
運 営 者	利尻富士町PTA連合会 事務局長	松本 ちひろ	利尻富士町立鷺泊小学校
	利尻富士町PTA連合会	平澤 芳史	利尻富士町立鷺泊小学校
運 営 者	礼文町PTA連合会	本田 辰也	礼文町立船泊中学校
	利尻町PTA連合会	三原 美和子	利尻町立利尻中学校
記 録 者	礼文町PTA連合会	八木 博	礼文町立香深井小学校
運営委員長 (分科会責任者)	利尻町PTA連合会	畑 慎司	利尻町立杓形小学校

第 5 分科会 提 言 要 旨

「会員ニーズに対応した情報発信と取組」

提言者 旭川市 PTA 連合会

鎌本かおり 踊場 啓通

1. はじめに

北海道のほぼ中央に位置する旭川市は、豊かな自然と都市機能が調和する人口約 33 万人の都市です。有名になった「旭山動物園」をはじめ、美瑛や富良野、層雲峡温泉などの観光名所が近郊にあり、地元グルメの旭川ラーメンや新子焼、米を中心とした農産物・地酒などでも有名です。飛行場があることから、道北観光の拠点として親しまれる都市となっております。

2. 旭川 PTA 連合会の組織と活動

市内 75 校（小学校 50 校、中学校 25 校）の PTA 会員から組織され、さらに地区ごとに 8 つのブロックに分けて、総務部、事業部、研修部の各事業を輪番で担当していただいております。

総務部は総会や理事会、教育懇談会、広報紙コンクール、P 連だよりの発行を担います。中でも旭川市・市教育委員会との教育懇談会では、各学校の PTA 代表と教育委員会の担当者・教育長らが直接意見交換を行う大切な場となっております。

事業部の主な活動として、ブロック交流会とわくわくサマー体験が挙げられます。ブロック交流会では 300 名超の保護者と教員が集い地区ごとに交流を深めています。わくわくサマー体験は、体験プログラムを作り、子どもたちに楽しんでもらう宿泊研修会です。毎年大人気ですぐに定員になります。私たち自身が子ども達と向き合うことにより、子どもたちの思考の傾向や幸せ感を模索することが出来る貴重な機会になっています。

3. 研究大会の内容と成果

① PTA 研究大会

研修活動による子育てに関する情報共有と会員自体の資質の向上を目的としており、大会の全体テーマを決め、そのテーマに添った参加者全員に向けた全体講演と、大会テーマを共有した複数の分科会のうちのひとつをご自分で選んでいただき、教育に関連した知識を身に付けてもらう場となっております。

昨年度は旭山動物園園長の坂東氏の全体講演をメインに 5 つの分科会を催し、350 名超の参加者をお迎えしました。アンケートでもほとんどが肯定的な意見や、今後の企画に対する希望などが多く見受けられました。

② 母親（保護者）研修会

『Power of smile』～幸せのエネルギーというテーマで毎年開催しておりますが、子どもに日々笑顔で向き合うためには、まず私たち大人が明るく元気な笑顔でいることが大切ではないかという考えから、リフレッシュできたり、心がワクワクするような研修内容を企画しています。

今年度は全体会に「ストレッチ」をはじめ 4 つの分科会を企画し 85 名ほどのご参加をいただき大盛況でした。参加された方が「楽しかった」と笑顔で帰宅された

のが印象的で、私たちも幸せな気持ちになりました。

4. 自分たちでつくりあげる研修会のために

自分たちで決めた大会テーマに添って、今自分たちが学びたいこと・学ばなくてはいけないことに向き合い、学びを実現してくれる講師を探すことが、私たち自身と私たちの住む地域を見直すことにつながります。会員自体が積極的に企画に参加していただくために、研修部の担当ブロックを輪番とし、さらに分科会ごとに小さなグループを作り企画と運営の担当をしていただいています。

母親研修会では、好きなことややってみたいことはなにか？に着目し、大人がわくわくできるちょっとした非日常が叶う分科会作りを目指しています。

また、ジャンル選定から、講師選び、会場設営まで、その年集まったメンバーから出た意見を元にメンバー中心で研修会を作り上げていきます。

5. 参加者が積極的に参加するために

沢山の参加者が積極的に参加し続けるプラスのループの研究大会にするには、その必要性を会員に実感してもらうことが必須です。そのためには会員のニーズに合った内容の講演や分科会を企画することが非常に重要です。

また、単位 PTA だけでは中々実現できないことを、実現できることがあることも大きな魅力です。講演料が高い著名人を講師に招いたり、ワークショップの中でより多くの意見集約をしたいなど魅力は広がります。

母親研修会では、大人がわくわくするジャンルを選ぶこと、託児場所の設置、そして開催日時と時間を選び参加しやすい環境を作っております。

6. 結果

「自分たちが自分たちのための情報を得るために自分たちで取り組む機会を作る」ことにより、現在に至るまで研究大会や母親（保護者）研修会を持続させることができたのだと考えます。

また、こういった活動を仲間と取り組むことこそが、私たちの人生の学びであり、子育てに対しての活力につながり、達成感などの喜びに繋がっています。

7. 今後の課題

会員数が年々減少し、予算も減り、働き方改革で教員の負担も減らさなければと、PTA 活動に否定的な意見も見え隠れする昨今、会員に必要な情報を発信し続けることの他に、PTA の活動と組織そのものが、なぜ必要なのかということを丁寧に説明していくことも必要と考えます。

また、後に続く仲間を集い、必要性を伝えていくことが大切です。そのためには私たちの活動自体を「見える化」と同時に「楽しく情報発信していく」ことが重要なのではないかと考えます。

特別第 1 分科会 【 中 学 生 討 論 会 】

「明日も通いたくなる学校ってどんな学校？」

協議の柱

1. 明日も通いたくなる学校にするために各校でどんな取組ができるのか
2. 明日も通いたくなる学校にするために大人に協力してもらいたいことは何か



	役 職 名	氏 名	所属単P名, 他
提 言 者	稚内南中学校長	本間 到	稚内南中学校PTA
司 会 者	稚内南中学校教頭	飯田 毅	稚内南中学校PTA
助 言 者	稚内南中学校PTA 会長	飯沼 剛	稚内南中学校PTA
運 営 者	稚内南小学校PTA 会長	伊藤 弘喜	稚内南小学校PTA
運 営 者	稚内港小学校PTA会長	中陳 大樹	稚内港小学校PTA
記 録 者	稚内南中学校教頭	飯田 毅	稚内南中学校PTA
運営委員長 (分科会責任者)	稚内南中学校PTA 会長	飯沼 剛	稚内南中学校PTA

明日も通いたくなる学校ってどんな学校？

提言者 稚内南中学校

校長 本間 到

1 はじめに

現在の学校を巡る教育課題は多岐にわたっています。「いじめ」、「不登校」、「SNS の利用に関わるトラブル」など、学校には子どもたちの心理的安全性を確保することが急務となっています。

いじめの認知件数は全国でおよそ 73 万件、不登校児童生徒の数は 34 万人を越え、宗谷管内の各学校においても一定数の認知件数が見られています。同じく不登校児童生徒数も宗谷管内では 140 名を超える数が報告されています。

本分科会では、様々な状況で苦しんでいる子どもたちがいることを前提にしながら、大人だけでなく、子ども自身の力も活用して、「明日も通いたくなる学校ってどんな学校」をテーマに子どもたち同士の話し合いを通し、いじめのない学校づくりや、誰もが安心して通える学校をどう作っていくか、本音を語り合いながらその手立てを探り、各学校の実践を深めていくことを目的とします。

2 子育て平和都市宣言の街「稚内」

昭和 50 年代、全国的な荒れが学校に吹き荒れていました。稚内でも同様でした。この状況を打破すべく、家庭・学校・地域が手を取り合い、昭和 61 年に「ふるさと

の次代を担う子どもたちのすこやかな成長と平和なまちづくりをすすめることは、すべての大人の責任である。」とし、子育て平和都市宣言が採択されました。これは全国的にも珍しく、令和の時代になってもこの宣言の趣旨は稚内市民の中に宿り続けています。時を同じく、子どもレベルでも「みんなが安心して通える学校を作ろう」を目的の一つとして「愛と平和を考える子ども会議」が発足しました。これは現在まで続いている活動で、名称は「子ども会議」と変わりましたが、根本の精神は引き継がれ、市内全ての小中学校の生徒会が中心となって一堂に会し、安心安全な学校をつくるために何ができるか考えています。

3 自分たちで学校をより良くする

学校の主人公は誰か、と質問したときに「それは児童生徒である」と胸を張って言いたい。そのための第一歩を本分科会が担い、次世代の稚内を担う子どもたちの財産にしたいです。中学生の考えをぜひお聞き下さい。

講演「命の参観日」

協議の柱

1.『多文化共生』『多様性を受け止めること』についての意見交流。

2. 講演内容についての感想交流



	役 職 名	氏 名	所属単P名, 他
提 言 者 ・ 実践発表者		玉城 ちはる	
司 会 者	潮見が丘小学校 教 頭	小棚木 秀行	稚内市立潮見が丘小学校
助 言 者	潮見が丘小学校 PTA会長	小寺 亘	稚内市立潮見が丘小学校PTA
運 営 者	潮見が丘小学校 校 長	門脇 憲司	稚内市立潮見が丘小学
運 営 者	潮見が丘中学校 PTA会長	澤村 慎太郎	稚内市立潮見が丘中学校PTA
記 録 者	潮見が丘小学校 主 幹 教 諭	阿部 竹志	稚内市立潮見が丘小学校
運営委員長 (分科会責任者)	潮見が丘中学校 PTA会長	小寺 亘	稚内市立潮見が丘小学校PTA

特別第 2 分科会 提 言 要 旨

テーマ 講演「命の参観日」

講師（提言者）

シンガーソングライター・家族相談士

玉城ちはる

1 はじめに

稚内市では、令和 6 年 6 月に開催された「稚内市教育講演会」の講師として、玉城ちはるさんに講演をしていただきました。「ホストマザー」として約 10 年間で 36 名の留学生を支援した経験から、「多文化共生」、そして、「共に生きること」の難しさと大切さについて、講話と歌唱により伝えてくださいました。ぜひ潮見が丘地区の子どもたちにも、そして多くの大人たちにも玉城さんのお話を聞いてほしいと思い、10月3日には潮見が丘小・中の児童生徒を対象とした講演会を、そして4日の全道PTA研究大会の特2分科会での講演をお願いしました。

2 「多文化共生」

「他者を理解し、違いを認め合う」ことや、「お互いを受け入れる」ことはとても難しいことです。玉城ちはるさんは、ホストマザーとして日本・中国・韓国の3つの国の子どもたちと10年にわたり共同生活をした実体験をもとに、「相手の気持ちや価値観に向き合い、寄り添いながら対話を重ねていくことの大切さ」を、すてきな歌と軽妙なトークで会場に伝えてくださいます。また、講演の中で紹介してくれる「優しさ貯金ゲーム」を参加者でこない、会場内には、相手への感謝と慈しみの気持ちがあふれます。

稚内市でおこなわれた講演会に参加した保護者・教育関係者からは、「子育ての悩み」「学級の子どもたちとの関わり方の悩み」「子どもたち同士の関わり方の悩み」に対する答えとなる内容だったと、大変好評でした。

現代を生きる子どもたちと向き合い、育てていく保護者・学校関係者にとって、とても励

みとなる、勇気をもらえるお話を聞かせていただけるにちがいありません。そのお話を受けて、参加者の皆さんでさらに、子育てや子育て支援について、深め合うことができればと思います。

◎講師プロフィール

シンガーソングライター・家族相談士。24歳から「自身にできる社会貢献活動」として、10年間で約36名の留学生と養護施設出身者との共同生活を行う。

2014年1月、公益財団法人日本ユースリーダー協会「第5回若者力大賞」ユースリーダー賞を受賞。同年9月に初のフルアルバム『私は生きている』でテイチクエンタテインメントタクミノートよりメジャーデビュー。

現在「ホストマザー」としての経験を活かし、全国の小中学校・高校・大学で歌と講話の講演『命の参観日』を行う。これまでに200校を超え、日本全国はもとより、中国、台湾、韓国の大学でも講演を行った。

『玉城ちはるのLINE相談 伴走支援』での相談も積極的に受け付け、登録者数2500名以上。広島版ひきこもり支援ポータルサイト『ハルモニ@ホーム』のアンバサダーを務めるなど、本格的な引きこもり支援も行う。2022年からは群馬県三枚橋病院で精神保健福祉士補助者・通称アカンパニメントサポーター（相談支援者）としても活動を始め、2023年に相談スペース『こもればカフェ』をオープン。

北海道PTA連合会 委員会活動報告

北海道PTA連合会では、これまで3つの委員会を設置し、子どもたちの健全育成や会員個々の資質向上を図るために研究を推進してきました。今年度から組織の再編を行い、組織・教育委員会と子育て委員会の2つの委員会で活動をすすめています。組織・教育委員会は各25地区の理事（代表者）、子育て委員会は各25地区選出の子育て委員を中心に、副会長や教師代表委員も参加して構成される委員会です。今日的な教育課題やPTA活動にかかわる課題等について研究・協議し、全道各地区の研究や実践の指針を提供する組織研究の場となっています。

【組織・連携委員会】

組織構築や組織運営について「魅力ある活力に満ちたPTA」を大前提として、演繹的な手法に基づいて、年3回の会議を持って調査研究活動を進めています。

今年度は、研究テーマを「ともに学び高め合うPTA活動や組織はどうあればよいか～心豊かな共育をめざす組織と活動の推進～」とし、研究協議を進めています。来年度道南大会分科会において、本委員会推薦PTAを決定し、よりよい実践を全道に発信する準備をしているところです。

大人も子どもも学び合い参加したくなるPTA活動を持続可能な状況で推進していくにはどうしたらよいか、子どもが安心して生活していくためにどう関係者が連携・協働していくか、などについて情報交流をすすめることで、よりよい実践が図られるよう委員会を進めていきます。



【子育て委員会】

親が輝く活動や家庭教育の実践を交流し、それを集積したものを共有し学びあうという帰納的な手法に基づいて年3回の会議を持って調査研究活動を進めています。

今年度は、研究テーマを「豊かな心をもった子どもを育てる親のあり方はどういうものか～誇りを持って子育てし、親自身も喜びを感じながら輝くこと～」とし、研究協議をすすめています。今年度宗谷管内・稚内大会では、子育て委員会としてはじめて推薦をした単Pが家庭教育について提言することになりました。

親が学んでみたい・輝きたいと思えることを研究大会や子育て研修会で取り扱っていけるような実践はどうしたらいいか、関係者が連携して生きる力を育てる家庭教育はどうあればよいか、などについて各地区のこれまでの実践も踏まえて情報交換を行っています。

